



はな ながくは、なん やくめ
花のがくは、何の役目をしているの

はな み まも やくめ
つぼみや花や実を守る役目をする

はな ね ところ かんさつ
花のつけ根の所についている「がく」は、アサガオやヘチマの観察などでは、つぼみの
ころには、つぼみをすっぽりくるんで、まも 守っています。はな さ はな ささ
花が咲いているときは、花びらを支
えています。はな お ね
花が終わると、めしべの根もとがふくらんできます。アサガオやキキョウ、ム
クゲなどは、たね じゆく と ち
種が熟して飛び散るまで、がくが、めしべの根もとをまも 守っています。
み ま なか まる み つつ
ホウズキの実などは、真ん中の丸い実を包んでいるのは、がくがのびてきたものです。

はな おお
花びらのかわりをするものも多い

はな しょうぶつ ね そとがわ
がくが、花びらのかわりをしているという植物もあります。チューリップの花の、外側の
まい はな いろ うちがわ まい ほんとう はな にわ
3枚の花びらは、がくに色がついたもので、内側の3枚が、本当の花びらです。庭のアジサイ
ちい はな み ちい はな はな
の小さい花びらに見えるものは、がくで、花びらではありません。アケビの花も、花びら
み み あか いろ
のように見えるのは、がくに赤い色がついたものです。

け へんか
がくが、毛に変化したタンポポ

ちい はな ひ ね け はな お
タンポポの小さい花びらを引きぬいてみると、根もとに毛がついています。花が終わった
あと わた かぜ と しろ け へんか
後、綿ぼうしのようになって、風で飛んでいく、白い毛になるものです。これも、がくが変化
してできたものです。（監修・矢野 亮）

